

喉頭がん

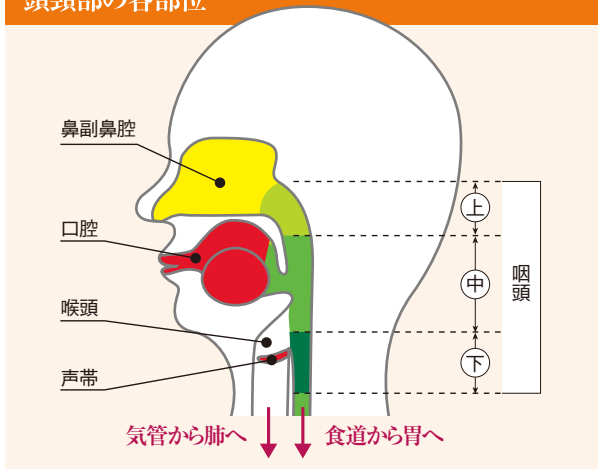
今回は頭頸部がんの1つで、発声や呼吸に関する喉頭がんについて紹介します。

■ 頭頸部(とうけいぶ)がんとは

頭頸部は、脳・脊髄・眼球を除いた鎖骨より上方のすべての部位を指し、そこにできるがんを頭頸部がんといいます(イラスト参照)。頭頸部がんは、全がんに占める割合の約5%ですが、発症すると日常生活に大きく影響する病気で、原因は、喫煙・飲酒・多食傾向・生活習慣と言われています。発症する部位によって初期症状は異なり、鼻出血、飲食しにくい、声がかれるなどさまざまです。

治療は、手術治療・放射線治療・化学療法を組み合わせています。飲食や呼吸などの機能を保つために、早期がんでは放射線治療のみを行い、進行がんでも手術での切除範囲をできるだけ小さくして、患者さんに負担を与えないように努めています。

頭頸部の各部位



特徴

生活する上で必要な機能が障害される

原因

喫煙・飲酒が大きな原因

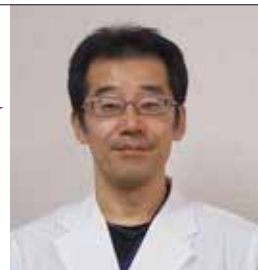
治療

手術治療・放射線治療・化学療法を組み合わせる治療する

次に、頭頸部がんの中でも発症頻度が高い喉頭がんを説明します。

患者の皆様へ

頭頸部がんでは注意してほしいことは、一般的な健康診断では頭頸部がんを見つける項目がないため結果がよくても安心しないことです。少しでもおかしいと感じる時は、本院の耳鼻咽喉科・頭頸部外科を受診してください。



■説明は
徳島大学病院
耳鼻咽喉科・頭頸部外科
阿部 晃治(あべ こうじ) 副科長
■問い合わせ先
Tel.088-633-7166(外来)

■ 「発声・呼吸・嚥下(えんげ)」に関わる喉頭がん

喉頭とはいわゆる「のどぼとけ」のことで、「発声・呼吸・嚥下」の3つの働きがあります。なお、嚥下とは食べ物を飲み込んで食道へ送る一連の動作のことで、食べ物が口から食道へ通る際に間違えて気管や肺に入らないように調節しています。

喉頭がんの発生率は10万人に3人程度で70歳代に発症のピークがあり、男女比は10:1で圧倒的に男性に多いという特徴があります。また、原因としては喫煙と飲酒が発がんに関与すると言われており、喉頭がんの喫煙率はほぼ100%と言われていています。

同じ喉頭がんでも部位によって初発症状、進行度と症状の変化、転移率、治療法、治りやすさまでいろいろと違います。主な症状は声がかれたり、のどの違和感ですが、進行すると呼吸困難を起こしたりします。診断は耳鼻咽喉科・頭頸部外科で鼻から内視鏡検査を行うことにより可能です。喉頭がんの治療は、早期であれば放射線治療を中心に行いますが、進行すれば喉頭を摘出する手術が必要となります。喉頭を摘出すれば声を出すことができなくなるため日常生活に支障をきたします。そのため早期発見が重要です。

